

国語における学習者用デジタル教科書・デジタル教材の活用例

I. 文章の構造と内容を把握する学習

<デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と活用方法>

教科書の紙面にペンやマーカーでの書き込みを簡単に繰り返し行う。(3.(2)(ア)②)

- ・教科書の紙面にペンやマーカーでの書き込みを簡単に繰り返し行うことができ、紙の教科書では躊躇するような、何度も繰り返し書いたり消したりすることを通じて、試行錯誤により考えを深める。(3.(3).(ア)①)
- ・教科書の紙面にペンやマーカーでの書き込みを簡単に繰り返し行うことができ、自分の考えを可視化し、相手に説明する材料を作成する。また、他の児童制度と意見交換しながら、学習者用デジタル教科書に何度も書き直しながら思考を深める。(3.(3).(エ)①)

<授業における具体的な活用例>

- 説明文において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について考察する際に、学習者用デジタル教科書を情報端末で使用することで、マーカーや書き込みを簡単に繰り返し行うことにより、「考え」と「理由や事例」をマーカーで色分けし、文章の構造や関係性についてキーワードなどを書き込むことにより、試行錯誤を繰り返させながら、児童の考えを可視化させる。その上で、グループに分かれ、教科書の文章に加えて自分の書き込みも参考にしながら、お互いに自分の考えを説明したり意見を述べたりさせる。

(参考) 関連する新学習指導要領の内容 (小学校国語)

第3学年及び第4学年 [知識及び技能]

- (1)カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
- (2)ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]

C読むこと

- (1)ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

Ⅱ. 文章を音読する学習

<デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と活用方法>

国語の音読や朗読の音声を、教科書の紙面に対応させつつ使用する。(3.(2)(イ)①)

- ・国語の音読や朗読の音声を学習者用デジタル教科書の紙面に対応させつつ使用して、個々の児童生徒の習熟度に合わせて速度の変更や特定箇所を再生を繰り返し行う。(3.(3).(ウ)①)

<授業における具体的な活用例>

- 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読する際や、古文や漢文などの学習において音読により言葉の響きやリズムに親しむ際に、学習者用デジタル教科書とデジタル教材である音読音声を一体的に使用することにより、音読音声に合わせて教科書の該当箇所がハイライト表示されるなど、音声と文章を同期させながら再生することで、音読のモデルとして音読音声を参考にするとともに、個々の児童が自分の苦手な箇所の音読音声を繰り返し聞きながら音読練習を行う。

(参考) 関連する新学習指導要領の内容 (小学校国語)

第3学年及び第4学年

[知識及び技能]

- (1)ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。

第5学年及び第6学年

[知識及び技能]

- (3)ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。

Ⅲ. 文章構成をとらえる学習

<デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と期待される効果>

教科書の文章の構成等を整理するツールを使用する。(3.(2)(イ)②)

- ・教科書の本文を簡単に抜き出すこと等により、一定のフォーマットの中で文章の構成等を分析する。(3.(3).(ア)②)
- ・自分の考えを可視化し、相手に説明する材料を作成する。また、他の児童生徒と意見交換しながら、学習者用デジタル教科書に何度も書き直しつつ思考を深める。(3.(3).(エ)①)

<授業における具体的な活用例>

- 説明文において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について考察する際に、教科書の文章の構成を整理するツール等のデジタル教材を学習者用デジタル教科書と一体的に使用し、段落構成を確認したり、文章全体における役割をキーワード等で整理したりすることにより、自分の考えを可視化し、話し合って深める。
- 物語文において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりから読み取る際に、教科書の文章の構成を整理するツール等のデジタル教材を学習者用デジタル教科書と一体的に使用し、場面の分かれ目を確認したり、作品全体の構成をキーワード等で整理することにより、自分の考えを可視化し、話し合って深める。

(参考) 関連する新学習指導要領の内容 (小学校国語)

第3学年及び第4学年

[思考力、判断力、表現力等]

C 読むこと

(1)ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること

(2)ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。

イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝えあったりする活動。

IV. スピーチや話し合いをする学習

<デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と活用方法>

教科書の紙面に関連づけて動画・アニメーション等を使用する。(3.(2)(イ)③)

- ・教科書に関連する内容を含めて学習内容を深く理解させたり、児童生徒の興味関心を高めたりする。(3.(3).(ク)①)

<授業における具体的な活用例>

- スピーチの学習において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などのコツを知りたいときに、模範となるスピーチの実演を行う動画等のデジタル教材を学習者用デジタル教科書と一体的に使用し、優れたスピーチの実演に触れることで、自分がスピーチをする際に工夫すべきポイントをつかむ。
- 話し合いの学習において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめるコツを知りたいときに、模範となる話し合いの実演を行う動画等のデジタル教材を学習者用デジタル教科書と一体的に使用し、実際の話し合いの様子を知ることで、司会の進め方のポイントや、話し合いで考えをまとめていくための具体的な方法を学習する。

(参考) 関連する新学習指導要領の内容 (小学校国語)

第3学年及び第4学年

[知識及び技能]

- (1)イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

[思考力、判断力、表現力等]

A話すこと・聞くこと

- (1)ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。
オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。